

# 学校名 練馬中学校・春日小学校

## 研究の概要

### 1 研究主題

「生きる力をはぐくむ小中一貫・連携教育」

### 2 主題設定の理由

思春期を迎える小学校高学年から中学校にかけては、心身の成長や変化が一生のうちで最も大きな時期であり、同時に精神的に不安定な時期でもあると言われている。小学校から中学校の間にある段差を適切なものとし、それを乗り越えるために、小・中学校が互いに連携をとった教育を進めることが重要となる。小中一貫教育を推進することで、「生きる力」の柱となる「豊かな心」と「確かな学力」を一層はぐくむことができると考える。

また、児童・生徒が望ましい学校生活を送るためには、小・中学校の教師が互いに学習面、生活面での情報を共有し合い、共に児童・生徒を育てていこうとする意識をもつことが出発点となる。児童・生徒が共に活動し、体験を共有する機会を意図的・計画的につくることによって、児童・生徒の人間関係づくりを促すことに繋がる。そこで、9年間を見通した指導の連続性を意図して研究主題「生きる力をはぐくむ小中一貫・連携教育」を設定した。

### 3 グループにおける小中一貫教育推進上の課題

- ・ 9年間の見通しをもった指導が、各教科指導において連携が十分になされていなかった。
- ・ 小・中学校において不登校や問題行動等の課題のある子供に対する対策が十分に協議なされていなかった。

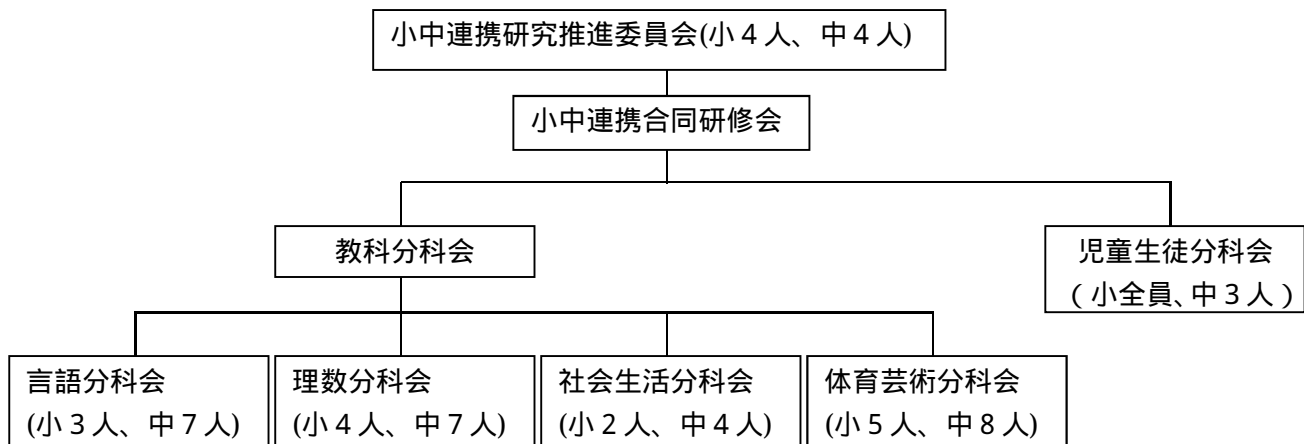
## 研究を推進する上での工夫

### 1 連携を進めるための研究組織

研究2年目となる今年度は、教科指導を重点に研究を進めた。今年度は小中連携研究推進委員会のメンバーを各校とも校長・副校長・教務主幹、研究主任の8名で推進することにした。

分科会として、言語分科会、理数分科会、社会生活分科会、体育芸術分科会を設定し、国語、社会、理科、体育の合同授業研究とした。

また、研究授業の際には教科指導における課題や授業改善の方向性について共通理解が図れるよう、練馬中学校を校区とする練馬小学校、高松小学校にも参加を呼びかけた。



## 2 連携を進めるための工夫

- ・ 前年度に小中の合同研究会 10 回を設定するための調整を行う。
- ・ 授業改善を図るための研究授業では講師を招聘し、授業を通して講師から学ぶ場を設定する。
- ・ 研究授業の際には、中学校の定期考査時に小学校の研究授業日とし全員参加とする。
- ・ 学習指導案の作成や教材研究、打ち合わせは放課後や夏季休業中に実施する。
- ・ 小・中学校の教員の意識調査を年 3 回実施する。
- ・ 3 月中に今年度のまとめとして研究収録を作成する。

## 3 年間研究計画

	連携項目	月・日	主な内容	
教 員 の 交 流	研究全体会	4月25日(水)	今年度の研究内容の確認、分科会顔合わせ、領域決め	
		6月14日(木)	校区别協議会：練馬小・高松小・春日小	
		10月17日(水)	中間まとめ	
		2月27日(水)	今年度のまとめ	
	分科会毎による研究授業及び学習指導案検討等	言語	5月24日(木)	小5年国語科学習指導案検討
			6月21日(水)	小5年国語科研究授業「声に出して楽しもう」
			6月27日(水)	課題改善カリキュラム検討
			7月4日(水)	課題改善カリキュラム、中学校3年国語科学習指導案検討
			9月12日(水)	中3年国語科研究授業 「想像力 ささまざまな見方・考え方を知る」
		社会生活	6月19日(月)	小5年社会科研究授業学習指導案検討
			6月21日(水)	小5年社会科研究授業 「国土の気候の特色と人々の暮らし」
			6月27日(水)	課題改善カリキュラム検討
			8月23日(金)	中1年社会科研究授業学習指導案検討
			9月12日(水)	中1年社会科研究授業「アフリカ州」
		理数	6月27日(水)	中1年理科学習指導案検討
			7月4日(水)	中1年理科研究授業「身のまわりの物質」
			9月12日(水)	小4年理科学習指導案検討、課題改善カリキュラム検討
			9月19日(水)	小4年理科研究授業「ものの温度と体積」
		体育芸術	6月27日(水)	中3年体育科学習指導案検討
			7月4日(水)	中3年体育科研究授業「水泳」
	9月19日(水)		小5年体育科研究授業「体づくり運動」	
	研究推進委員会	4月6日(金)	合同研修会への打ち合わせ	
		7月4日(水)	研究のまとめについて	
10月15日(水)		合同研究会への打ち合わせ		
児 童 ・ 生 徒 の 交 流	中学生の職業体験	6月28日(木) ～6月29日(金)	中学2年生による小学校でのリトルティーチャー体験	
	授業公開及び部活動体験	9月15日(土)	小学生対象の中学校での体験授業および部活動体験	
	作品交換	11月3日(土)	中学校の文化発表会に小学生の作品展示	
		2月9日(土)	小学校の作品展に中学生の作品展示	
	体験授業	11月16日(金)	小中学生による地域清掃	
		2月26日(火)	小学5年生の中学校での体験授業、部活動体験	

研究構想図

春日小学校・練馬中学校の教育目標

各校の児童・生徒の実態

- 小中連携の必要性
- ・滑らかな中学校への接続
  - ・学習指導の連続性
  - ・生活指導の統一性
  - ・小中学校の相互理解 等

- 小・考えて正しく行動する子ども
- ・素直で思いやりのある子ども
  - ・がんばりぬく元気な子ども
- 中・自信をもって生きる人をつくる

- 小・落ち着いた学習・生活習慣
- ・中学生活への不安・疑問
- 中・学習習慣の定着・学力の向上
- ・自主性の伸長

研究主題

生きる力をはぐくむ小中一貫・連携教育

推進方針

児童・生徒のよりよい成長のために、小中の連携を進める。実施可能な取り組みを模索し、“顔の見える”連携とする。

児童・生徒像

何事にも主体的に行動する児童・生徒

<言語分科会>

・「読むこと」における系統性を踏まえた指導計画の作成

<社会・生活分科会>

・「地理的分野」における資料活用の指導の系統性を踏まえた指導計画の作成

<理数分科会>

・9年間連続した「問題解決型学習」の実践  
・理科の「粒子」の内容における指導計画の作成

<体育・芸術分科会>

・体育の「全身持久力」の向上に向けた系統性を踏まえた指導計画の作成

<児童・生徒分科会>

・児童・生徒の交流活動の推進

生きる力

確かな学力

豊かな心

思考力

既習事項を活用して解決する力

表現力

自分の考えや思いを自分の言葉で表現する力

思いやる心

相手の気持ちを思いやり行動する力

判断力

考えの相違点や類似点からよりよい考えを見つける力

関わる力

よさを認め人間関係をつなぐ力

共感する力

自分の心で感じ取る力

手だて

特色ある指導体制

- ・ 期（1～4年）学級担任制
- ・ 期（5～6年）一部教科担任制
- ・ 期（中学）教科担任制

問題解決型の学習を活用した9年間の学びの連続性の確保

指導内容の系統性の重視

指導力向上(学力向上)のための教員研修の充実  
相互理解を深める合同研究会・研修会の活性化

推進組織の活性化と役割分担の明確化

異年齢集団での交流や体験的な学習の推進

自分の考えの発表や話し合いの重視

児童・生徒が主体的に話し合いを進めるための支援

児童・生徒の考えを生かす学習のまとめへの支援

発達段階に応じた生活指導の充実と小中の連携

## グループの特色ある取組

### 1 児童・生徒の取組

#### (1) 中学校生徒会による学校説明会

平成23年9月に小学6年生を対象に中学校生徒会が、小学校で実施した。中学校の生活やルール、授業風景、委員会、部活動などを、中学校で制作した学校ビデオを見ながら説明した。また、質問コーナーを設け、卒業した先輩の生徒会役員から本音も聞くなど、和やかな雰囲気の中で行われた。



#### (2) 中学校での授業公開・体験授業および部活動体験

9月中旬に小学6年生を対象に中学校の授業参観や技術科、英語科の小学生体験授業を行った。技術科は、パソコンでカレンダーや名刺などを制作し、英語科は英語科の先生とALT（英語学習指導外国人助手）とのTTで授業を行っている。参加した小学生は授業参観や体験で授業の様子が分かる。毎年人気があり、小中連携校以外の小学校からも多くの小学6年生が参加している。



公開授業・体験授業とは別に、9月初旬に部活動体験を、小学6年生を対象に行った。中学生が先生になり、普段の活動を丁寧に教え、体験させた。部活動は、運動部と文化部が同時に行われ、両方の部活動に参加する小学6年生も見られ、真剣に取り組む姿で入学後の部活動の参考となった。



#### (3) 小中合同クリーン運動

平成23年度は震災のため中止になったが、平成24年度は11月に行う。小学校の5・6年生と中学校1年生がお互いに協力し、地域清掃を行う。中学生が小学生のよきリーダーとなってグループで活動し、日々お世話になっている地域の清掃活動を通して奉仕活動をする。

#### (4) 児童・生徒の作品交流

中学校の美術作品と技術家庭作品、小学校の図画工作作品の作品交流を行う。小学校児童代表作品を11月に行う中学校文化発表会で展示発表をする。また、中学校生徒代表作品を2月に行う小学校作品展で展示発表をする。

書写は、小学校児童作品と中学校生徒作品を2月に作品交流し、小学校・中学校同時期に小中別々に展示を行う予定である。



## 2 教員連携等の取組

### (1) 小中合同研修会における共同研究

平成23年度より、講師をお招きして「小中一貫教育」についての研究会を行った。また、平成24年度は小学校教員と中学校教員の意識調査を年3回(4月・9月・2月)行い、小学校・中学校教員の9年間を見通した教科教育・生活指導等に対する意識や小中一貫教育に取り組む中で、どのような変化があるのか調査し、今後の連携に生かす。



### (2) 小学校と中学校の研究授業

平成24年度は、小学校・中学校教員を4分科会(言語分科会、理数分科会、社会生活分科会、体育・芸術分科会)に分け、授業研究を行った。各分科会で小学校1回、中学校1回の2回研究授業を行い、同時に2分科会実施し、他の2分科会は授業参観を行った。その後研究協議を行い、講師の先生からのご指導を毎回いただいた。研究授業は、小学校・中学校の児童・生徒の現状と授業の進め方、9年間を見通したカリキュラムをつくり「確かな学力」を育てる工夫をする。



## 課題改善カリキュラム(教科の単元系統図)

### 1 課題改善カリキュラム作成上の基本的な考え方

新学習指導要領が小・中学校とも全面実施となり、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に各学校では努めなければならない。そのためには、小・中学校の各校種において、それぞれが学習内容を身に付けさせるだけでなく、小学校段階から培った能力を中学校段階においてさらに積み上げ、開花させる必要がある。しかし、現実には培った能力を生かしきれない指導があったり、培っておかなければならない段階で能力が身に付いていなかったり、育てる能力が指導する担当者により理解されていなかったりする現状があった。

そこで本研究グループでは、児童・生徒の各教科(平成24年度は国語科、社会科、理科、体育科・保健体育科)における実態を共有し、育てるべき力を絞り、明確にした。そして、9年間の児童・生徒の学びを見通し、各段階において身に付けさせるべきことを学習活動から見直し、指導の在り方について明確にすることとした。

### 2 カリキュラム改善の視点

各分科会においては、複数教科から1教科を選択し、さらに観点や領域など、児童・生徒の実態から視点を絞り、課題改善カリキュラムの作成を図った。

- ・言語分科会... 国語:「読むこと」における読み方、読解、交流に関する指導
- ・理数分科会... 理科:「粒子」における実験・観察の技能に関する指導
- ・社会生活分科会... 社会:「地理的分野」における資料活用の技能に関する指導
- ・体育・芸術分科会... 体育:「全身持久力の向上」に向けた各領域での指導

言語分科会「国語」課題改善カリキュラム「読むこと」

期	内容 学年	児童の課題	音読	効果的な読み方	説明的な文書の解釈	文学的な文章の解釈	自分の考えの形成及び交流	カリキュラム改善の視点
期	小学校 第1学年 第2学年	語のまとまりに気を付けながら音読すること。 時間的な順序や事柄の順序をとらえること。	語のまとまりや言葉の響き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年では、一人読みの時間を十分とる。</li> <li>・第2学年では、役割読みを取り入れる。</li> </ul>	時間的な順序や事柄の順序	登場人物の行動	自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。	様々な方法で繰り返し音読させる。 並び替える活動を取り入れる。
	第3学年 第4学年	段落相互の関係を理解すること。 自分の言葉で短くまとめる要約が苦手。	内容の中心や場面の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各段落の内容を整理する</li> </ul>	段落相互の関係や事実と意見との関係	登場人物の性格や気持ちの変化、情景	文章などを引用したり要約したりする。	内容を短くまとめさせる。
期	第5学年 第6学年	要旨をとらえること。 自分の考えをもつこと。	自分の思いや考え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて、本や文章を比べて読むなど、効果的な読み方の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要旨をとらえる。</li> <li>・自分の考えを明確にする。</li> </ul>	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写	自分の考えを広げたり深めたりする。	キーワードや筆者の意見について書かれた部分に注目させる。 比較する活動を取り入れる。
		生徒の課題	語句の意味の理解	文章の解釈	自分の考えの形成	カリキュラム改善の視点		
	中学校 第1学年	文の構造をつかむこと。	文脈の中における語句の意味を的確にとらえる。	中心的な部分と付加的な部分、事実と意見 場面の展開や登場人物の描写	文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ。 自分のものの見方や考え方を広げる。	文章の構造が把握できるように接続詞に着目して読む。 説明文(主張と説明) 小説(時系列の整理)		
期	第2学年	長文をじっくりと読み深めること。	抽象的な概念や心情を表す語句	全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の行動の意味	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる。 知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。	要点を捉えながら長文を読めるようにする。(段落相互の関係性に注意して、論理の展開について理解する。登場人物の心情の変化を示す描写に注意して読む)		
	第3学年	抽象概念が入ると理解できない。	文脈の中における語句の効果的な使い方や表現上の工夫	文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方	文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価する。 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつ。	文章の表現技法を意識して読めるようにする。(接続語や指示語に着目して、文の構造や展開を捉えられるよう演習を行う。辞書を用いて語彙力を増やす。)		

社会生活分科会 「社会」課題改善カリキュラム「地理的分野」

期	内容		地理的分野に関する知識・理解	資料活用の技能	カリキュラム改善の視点
	社会(生活科)	学習内容			
期	小学校 第1学年	学校探検	学校内の教室や校庭などの施設について、場所の説明ができる。		小学校3年生では、身近な疑問についての調査活動を中心に、簡単な表や絵地図にまとめる活動を行う。 4年生では簡単な表やグラフの読み取り、地図帳を活用する習慣や技能を身に付け、これからの社会科学習の基礎的な力を育てる。
	第2学年	まち探検	春日小学区域の中で、ランドマークとなるものをあげて場所を説明できる。		
	第3学年	学校周辺の様子 練馬区の様子	地図記号 四方位	【観察・調査】 ありのままに観察する。 ( 観察する 質問する 触れる 記録する ) 知りたいことをあらかじめ決めて観察・調査をする。 他の場所や以前に学習したことと比べながら調査する。	
	第4学年	東京都の様子	地図の読み方・内容構成(地図帳配布) 都道府県名 地形や伝統的な文化	【具体的資料の活用】 棒グラフの読み取り方。 ( 全体の傾向 一番 急に 数値を読み取る ) 必要な資料を収集する。 地図帳の活用。(索引・番地)	
期	第5学年	世界の中の国土 国土の地形の特色 国土の気候の特色 国土の産業の様子 (農業・水産業・工業・情報) 国土の環境・自然災害の防止	大陸、海の名義 日本とつながりのある国の名称・位置 緯度経度 都道府県名称・位置 国土の地形と気候の特色 自然災害を防ぐ取組	資料から必要な情報を読み取る。 写真・・・資料に印をつけながら、気付いたことをメモする。 グラフ・・・棒グラフの読み取り方を、様々なグラフへ活用。 事実と考えを分けて書く。 変化の理由を考える。 複数の資料を関連付けて読み取る。 グラフ:グラフ・・・比較 写真:グラフ・・・関係を見付ける 必要な資料を収集したり選択したりする。 まとめ方をイメージする。	小学校から中学校の学習への連携  小学校6年生で学習する「日本とつながりの深い国々」の学習では、日本と文化・歴史・経済で深くかかわる国について学習する。 この学習を、中学校1年生の「世界のすがた」の学習の導入に生かして指導を行う。
	第6学年	日本とつながりの深い国々 世界の未来と日本の役割	日本とつながりのある国の名称・位置 世界各地での日本人の取組	複数の資料を関連付けて読み取る。 他国の様子を複数資料から読み取り、日本と比較して考える。 必要な資料を収集・選択したり吟味したりする。 まとめ方をイメージしてから調べることを決める。 資料を整理したり再構成したりする。	
	中学校 第1学年	世界のすがた	六大陸三大洋 地球儀と世界地図 16方位 緯度経度 地図帳の索引 おもな国々の国名と位置	地球儀や地図帳を適切に活用する。 (世界の地域区分や国境、世界の略地図) 日本と比較して考える。 世界各地の生活・環境の様々な資料を読み取る。 (雨温図・宗教・過去・現在) 既習の他地域と比較して考え	
期	第2学年	日本のすがた 身近な地域の調査	日本の位置 都道府県と県庁所在地 日本の山地、海岸 日本川、平野 日本の気候 地図帳の読み取り方	地球儀や地図帳を適切に活用する。 (時差・日本の略地図・日本の地域構成) 身近な地域に関する様々な資料を活用する。 (土地利用地図・分布図・グラフ・統計の活用と作成・地図) まとめ方の工夫と発表 (表・地図・関連図など、内容に適したまとめを工夫する)	日本のすがたの指導について 小学5年生での都道府県の学習をもとに、中学校2年生の「日本のすがた」の学習を進める。  地球社会と私たちの指導について 小学6年生の「世界の未来と日本の役割」と中学1年生の「世界のすがた」の学習をもとに、公民的分野「地球社会とわたしたち」の指導を行う。
	第3学年	(公民的分野) 地球社会とわたしたち	国際社会における国家(日本の領土) 国際連合のしくみと働き 地域主義の動き(EU、ASEAN等) 国際問題とわたしたち(環境・資源等)	国際社会と平和に関する様々な資料を情報手段を活用して収集する。 諸課題についての有用な情報を、読み取って図表などにまとめたり発表したりする。	

理数分科会「理科」課題改善カリキュラム「粒子」

期	内容		問題解決の能力を育てること	実験・観察の技能を育てること	カリキュラム改善の視点
	学年				
期	小学校 第3学年	物の重さの性質やきまりに興味・関心をもって見ることができる。	物質の性質について比較しながら問題を見だし、差異点や共通点について考察し表現して、問題を解決する力を育てる。	物の性質について、体感を通して比べる。 物の重さ、体積、形などの関係を手応えなどの体感や身近な物をものさしにして比べる。 身近な物を適切に使って安全に実験をする。 ・デジタル秤の使い方 ・てんびんの使い方	事象を大きさ、重さなどの直接感じ取ることのできる視点で「比べながら」調べる。 「粒子」としては扱わず、形のある物の大きさや重さとしてとらえる。 手で小さくちぎるなどの操作を通して、形を変えても物自体の重さなどは変わらないという実感を伴った考えを持てるようにする。
	第4学年	空気・水・金属の体積や温度の変化について興味・関心をもって見ることができる。	空気や水の性質や空気・水・金属の温度についてその要因とのかかわりに問題を見だし、変化と関係する要因について考察し、問題を解決する力を育てる。	空気や水の性質や空気・水・金属の温度について、体積の変化や力(手ごたえ)と関係付けて調べる。 ・空気や水を押し縮める実験 ・空気、水、金属を温めたり冷やしたりする実験 ・水の三態変化の実験 理科室の設備や実験器具の使い方を覚え、安全に実験する。 ・ビーカーや試験管、フラスコなどのガラス器具の使い方 ・温度の測定 ・マッチの安全なすり方 ・アルコールランプによる加熱	体積の変化や温度の変化などの事象と変化の要因を「関係付けながら」調べる。 温度や体積、手応えなど実際に感じ取れるもの(実体としての「粒子」)としてとらえる。 閉じ込めた空気は見えなくても手ごたえや石鹼水の膜の変化などでそこにあることが分かるようにする。
期	第5学年	物のとけ方や電流の働き、振り子の規則性などについて興味・関心をもって見ることができる。	物の溶け方についてその要因との関係に問題を見だし、条件に着目して計画的に追及し、量的変化や時間的变化について考察し表現して、問題を解決する力を育てる。	物のとけ方について溶ける量や温度、水溶液の重さなどの条件を制御して調べる。 ・食塩、ホウ酸、ミョウバンなどの薬品の取扱い ・上皿天秤やデジタルスケールを使った計量 物の性質、働きについて、条件の違いに着目しながら観察する。	5年生では「条件を正しく制御し」、結果の違いから事象の原因や法則を考えることができるようにする。 「物の溶け方」では「見えなくても重さは消えない。」ことから、「水に食塩やホウ酸が溶ける。」ようすをイメージ図などで表現できるようにする。
	第6学年	燃焼や水溶液、てこの働き、電気の利用について興味・関心をもって見ることができる。	物の性質・働きについてその要因との関係に問題を見だし、推論しながら追究し、規則性や相互関係について考察し表現して、問題を解決する力を育てる。	物の性質、働きについて、見えないものの変化や性質を推論しながら調べる。 燃焼の仕組みについて物や空気の変化について推論をもとに実験を行う。 ・実験用気体の集め方や使い方 ・気体検知管の使い方 いろいろな水溶液の性質や動きを推論をもとに実験を行う。 ・リトマス紙の使い方	6年生では燃焼や薬品による変化を「推論的に」とらえて、気体の変化や酸・アルカリの反応などを図や言葉で表現できるようにする。
	中学校 第1学年	身近にある物質について理解し、興味・関心をもって見ることができる。	身のまわりの物質についての観察・実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てる。	物質の状態や変化について粒子のモデルと関係付けて考える。 物質の区別での変化や現象を観察、記録する。 ・ガスバーナーによる加熱。 ・質量の測定 ・物質を確定させるための実験。(石灰石、リトマス紙など) 状態変化では物質は変わらないことを「粒子のモデル」で説明する。 物質の溶解や再結晶について実験を通して調べる。 ・水溶液中で溶質が均質になることを「粒子のモデル」を使って説明する。 ・物質には固有の性質と共通の性質があることを理解する。 ・再結晶、溶解度などについて理解する。	中学1年生では、実験で観察できる水溶液の様子などを「粒子のモデル」と関連づけて理解できるようにする。 状態変化を「粒子のモデル」を使って説明できるようにする。 水溶液中で溶質が均一になっている様子や状態変化を「粒子のモデル」を使って説明できるようにする。
期	第2学年	物質は何からできているのか考え、原子・分子について理解し、物質のなりたちについて興味・関心をもって見ることができる。	化学変化と原子・分子についての観察・実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てる。	化学変化について原子、分子のモデルと関係付けて考える。 化学変化の実験の基本的な操作を習得する。 ・化合の実験 ・酸化・還元の実験 ・化学変化と熱の実験 (酸化銀の分解、炭酸水素ナトリウムの分解など)	物質の性質を「粒子のモデル」を使って理解する。 分子・原子という概念を使って、物質を統一的に説明できるようにする。(「粒子の統一的理解」)
	第3学年	水溶液について考え、イオンについて興味・関心をもって見ることができる。  科学技術の進歩について考え、これからの生活に生かせるようにする。	化学変化とイオンについての観察・実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てる。	化学変化についてイオンのモデルと関係づけて考える。 酸・アルカリの性質を調べる実験。 ・水溶液に電流を流す実験。(水の電気分解など) ・力の合成と分解 ・物体の運動とエネルギーの実験 ・中和における変化の観察。 水溶液とイオンの実験 ・水溶液の電気伝導性 ・化学変化と電池 身のまわりにある科学技術の確認と新技術について知る。	中学2年生では実験で観察できることだけでなく、実験などでは観察できない事象についても、原子・分子のモデルなどを使いながら物質の性質について理解できるようにする。  中学3年生では、酸・アルカリの性質や電気分解などをイオンのモデルを使って説明できるようにする。



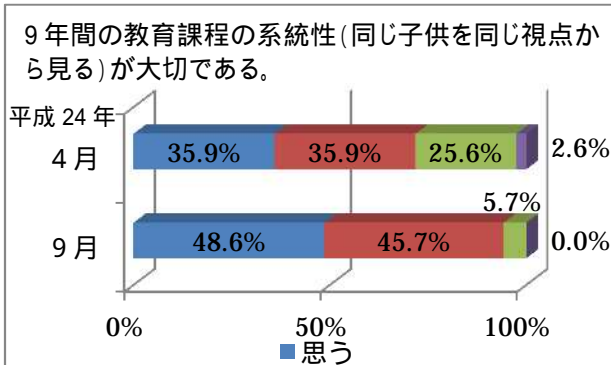
体育・芸術分科会 「体育」課題改善カリキュラム「全身持久力」

期	内容	体育、保健体育において身に付けさせたの力「全身持久力」の向上			カリキュラム改善の視点
		体づくり運動	水泳系	ボール運動系(ゴール型)	
期	小学校 第1学年	<多様な動きをつくる運動遊び> 体を移動する運動遊び 「無理のない速さでのかけ足(2~3分程度)」 ・単調にならないようにコーンやロープを使った動きを取り入れる。 「短なわ」 ・両足で連続して跳ぶ遊びを取り入れる。 なわの持ち方や、効果的な跳び方について、資料やビデオを基に指導する。	<水遊び> 浮く・もぐる ・浮くことに抵抗感をもたないよう、親しみやすいキャラクターや動物などの模倣する遊びを取り入れる。 ・場面設定を工夫する。 パブリングやポビング ・教師側の指示を動物に例えたり、乗り物に例えたりして動きが児童に伝わりやすくする。	<ボールゲーム> 転がしドッジボール・方形ドッジボール ・コートや広さ、プレーヤーの数、ボールの種類(固い・柔らかい)や用具等を工夫する。 ・ゲームに結び付くような補助運動を取り入れる。 ・鬼遊び ・攻守交代型や攻守入り型など、一定の時間、動きを持続するような鬼遊びを選択する。	単調な動きにならないように、場の設定や用具の工夫をし、楽しく運動ができるようにする。
	第2学年				
	第3学年	<多様な動きをつくる運動> 体を移動する運動遊び ・「無理のない速さでのかけ足(2~3分程度)」 単調にならないようにコーンやロープを使った動きを取り入れる。 「短なわ」 ・技の種類を増やす。 ・スモールステップを用いた学習カードを使う。	<浮く・泳ぐ運動> 連続したポビング ・単調にならないように、場面設定を工夫する。 面かぶりのクロール、平泳ぎ ・「ウン・パッ」のリズムで呼吸をしたり、補助具を使い、手足の動きと呼吸のタイミングを指導したりするなど、スモールステップの指導を取り入れる。 ・パディを取り入れた指導。	<ゴール型ゲーム> エンドボール ・ボールの種類やコートや広さ(グリッドからオールコートまで)、攻守交代を子供の実態に応じて行い、ゲームを中心とした活動を取り入れる。	
	第4学年				
期	第5学年	<体力を高める運動> 体の柔らかさや巧みな動きを高めるための運動 ・人数を増やしたり、姿勢を変えたりして取り組む 動きを持続する能力を高める運動 ・自分のもっている速さに合わせて、周回毎にタイムを測り、数値化して学習カードにグラフ化する。 ・できる技を、リズムに合わせて長く跳ぶ。	<水泳> クロール 平泳ぎ ・パディ、トリオを取り入れた指導 ・水の中でも確認できるような学習資料を用意する。 ・キック、プル、コンビの段階をおったスモールステップで、泳法を身に付けさせる。	<ボール運動・ゴール型> バスケットボール ・ボールの操作とボールを持たない動きに表れるように、フィールドプレーヤーの数やコートの広さを工夫できる活動を取り入れる。 ・ゲームを中心とした活動を行う。	運動の楽しさや喜びを味わわせる活動を工夫する。
	第6学年				
	中学校 第1学年	<動きを持続する能力を高める運動> (時間や回数・距離を決めて動き続ける) 全学年共通の準備運動(目安10分以内) ・体操 ランニング ・補強運動(腹筋 背筋 腕立て伏せ しやがみ込みジャンプ 馬とび 補助倒立) 3分間走 30秒間腹筋 陸上競技(持久走) ・男子1500m走 女子1000m 12分間走 ・1周200mのラップタイムを意識して、ペース配分を考えながら自己の記録更新に挑戦する。	<水泳> クロール ・手と足、呼吸のバランスをとり速く泳ぐ。 平泳ぎ ・手と足、呼吸のバランスをとり長く泳ぐ。 ・1年次臨海学校に向けた遠泳の練習(顔揚げ)	<球技・ゴール型> バスケットボール サッカー ハンドボール ・ボール操作などの基本的技能を身に付け、仲間と連携した動きでゲームを行う。 ・ゲーム中、空間に走り込むなどの動きによって攻防を展開する。	
期	第2学年				小学生期における運動嫌いの子供をつくらない指導の工夫を活かしつつ、生徒が運動の楽しさや喜びを味わい、自ら積極的に運動に取り組む態度を育てる。
	第3学年				

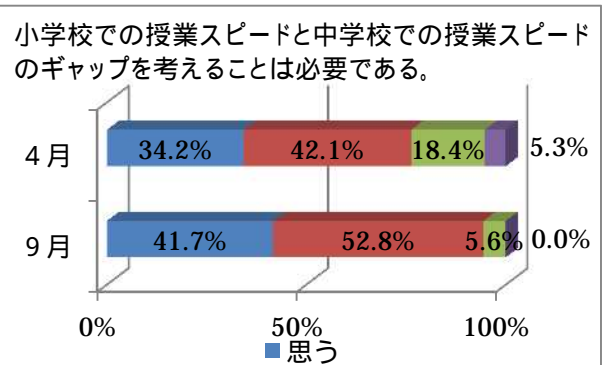
## 成果と課題及び今後の方向性

### 1 成果

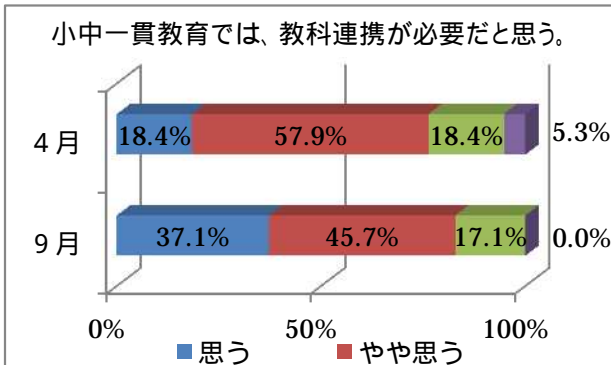
- (1) 小学校教員と中学校教員の意識調査を年3回(4月・9月・2月〔未実施〕)行い、小学校・中学校教員の意識の違いや小中一貫教育に取り組む中で、どのような変化があるのかを比較し、分析することとした。4月と9月の調査比較では、以下のような成果が見られた。



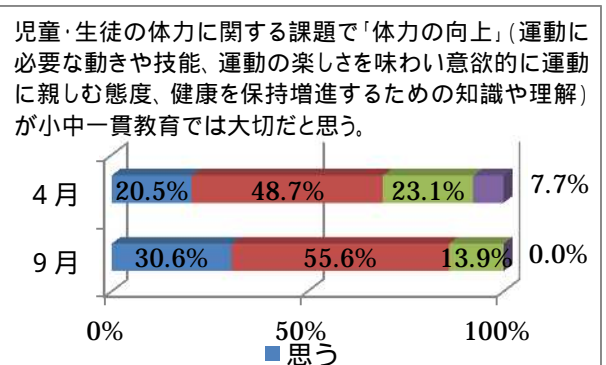
肯定的回答が20ポイント以上増加した。研究授業、分科会での話し合い、課題改善カリキュラムの作成により、系統的に子供を見て、指導する必要性の理解が深まってきたと考える。



肯定的回答が18.2ポイント増加した。互いの研究授業を参観し協議したり、課題改善カリキュラム作成のため学習指導要領により指導内容を捉えたりした結果であると考えられる。



肯定的回答が6.5ポイント、また「思う」については18.7ポイントの増加である。教科連携を中心に研究を進めた成果である。今年度未実施の教科の研究も深めていけば数値は変容すると考える。



肯定的回答が17ポイント増加した。体育・芸術分科会の授業や子供たちの実態からの変容であると考えられる。体育の授業だけでなく、運動の日常化を視野に入れ、考えていく必要がある。

- (2) 児童生徒分科会で取り組んだ「中学生による学校説明会」や「小中合同クリーン運動」、「中学校での授業参観・体験授業及び部活動体験」は、小学生が中学校生活に対して不安感を減少させ、安心して中学校生活を迎えられる取組となった。作品交流では、中学校の美術科や技術家庭科で制作する作品を小学生が見ることができ、教科に対する理解も深まっている。

### 2 課題

- (1) 平成24年度より教科連携の研究を始めたため、児童生徒の学力及び体力の変容を見取ることができていないこと。
- (2) 課題改善カリキュラムの作成が4教科の一部に焦点を当てたものになっていること。また、今年度作成した課題改善カリキュラムの検証ができていないこと。
- (3) 不登校の解消及び生活指導の連続性についての検討ができなかったこと。

### 3 課題解決に向けての今後の方向性、取組の工夫、連携の在り方など

以下について、各校の行事予定、時間設定を調整しながら行っていく。

- (1) 課題改善カリキュラムに掲げた項目についての児童生徒の変容を学力調査や新体力テスト等から見取り、課題改善カリキュラムの成果を検証し、改善を図ること。
- (2) 作成していない教科の課題改善カリキュラムの作成にあたり、中学校区にある小学校にも連携を呼びかけ、全教科で作成し、実施すること。
- (3) 校区別協議会を用いて、不登校の解消及び生活指導の連続性に焦点を当てた話し合いにすること。